

第54号 通巻10巻第5号
1991年1月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎0775-85-4397

〒524-02
守山市服部町2250番地

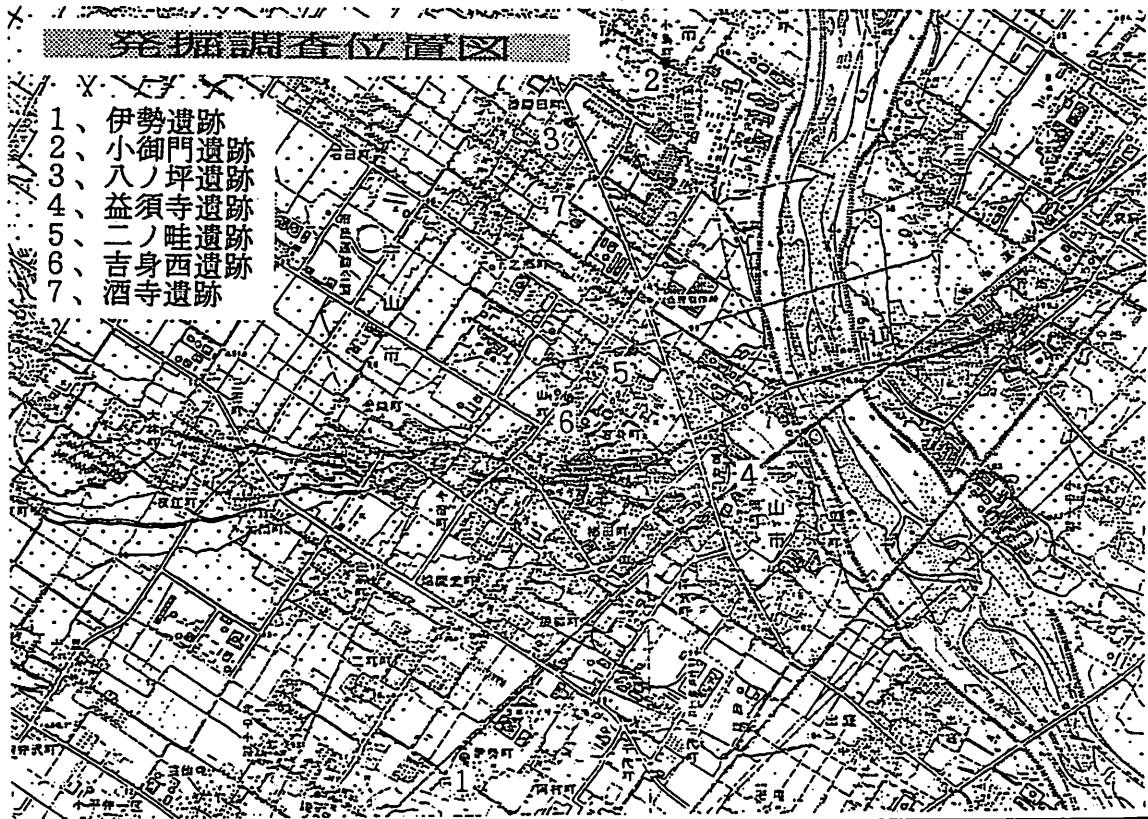
☆ 年頭にあたって ☆

明けましておめでとうございます。お陰をもちまして『乙貞』も誕生以来54回目を発行するまでに生長してまいりました。手づくりで、うすっぺらなものでございますが、より早く、よりの確に市内の発掘調査成果を伝え続けることができたものと自負致しております。一つの報告記録が歴史の断面を人々に提供する意味において私達の『乙貞』も歴史の解明の礎^{いしづえ}となることを願い、今後もたゆまぬ努力を積み重ねて参る所存であります。皆様方の御指導、御鞭撻^{ごべんたつ}を宜しくお願い致します。

守山市立埋蔵文化財センター 所長 藤本 英策

発掘調査位置図

- 1、伊勢遺跡
- 2、小御門遺跡
- 3、入ノ坪遺跡
- 4、益須寺遺跡
- 5、二畦遺跡
- 6、吉身西遺跡
- 7、酒寺遺跡



☆ 発掘調査だより ☆

＜ 調査終了 ＞

1, 伊勢遺跡

調査地. 守山市伊勢町字伊勢田
調査期間. 平成2年12月13～14日
調査面積. 80㎡
調査実施の理由. 個人住宅建設に伴う事前調査

調査概要.

今回の調査では全体面積が149㎡の中で80㎡を対象としました。耕作土直下で黒褐色土があらわれ、これをベース（生活面）に鎌倉時代の掘立柱建物の柱穴が検出されました。建物は東西3間以上南北3間以上で東、北に更に広がることが予想されます。なおこの黒褐色土は弥生時代後期から古墳時代後期の遺物を包含しており、礫層の上に堆積した包含層であることがわかりました。

(山崎)

2, 小御門遺跡

調査概要.

8月13日より実施していました調査は、さる12月14日で終了しました。申請面積3,078㎡のうち、実際の調査は歩道部分を除く幅11m延長171mの約1,880㎡でした。遺構は川田町側より約86mまでで上下の2面を検出し、それより西側20mまでは1面、さらに西側では確認されないという結果でした。上層遺構は地表より約50cmのところ田畑の畝の間をしめす溝、浅い落ち込み、土地区画整理の跡がみついています。しかしその検出した状況は密ではありません。これらの遺構の時期は、出土遺物が少なく断定できませんが、およそ鎌倉時代から江戸時代にあたると思われます。下層遺構もまばらで、溝6条を検出するにとどまりました。これらの溝の時期はT-1、SD-1より出土した須恵器、土師器、より6世紀頃と思われます。

まとめ.

小御門遺跡は、試掘調査によって遺跡が存在することがわかり、本調査の結果、古墳

4, 益須寺遺跡

調査概要.

今回の益須寺遺跡の発掘調査は、JR琵琶湖線と県道栗東・大津線（琵琶湖大橋取付道路）の交叉部東側の工場内で実施しました。現在、益須寺遺跡はこの交叉部を中心に半径 200mあまりの範囲に分布するものと考えられています。近年、高層マンションや店舗、倉庫などの開発がさかんで、発掘調査件数も多く、数々の新しい知見を得ている遺跡で、昭和63年には前方後方墳と呼ばれる古墳も発見されています。さて調査地は益須寺遺跡の分布の東の縁辺に位置しています。つまり当地以東には遺跡が広がらないと考えられているわけですが、想定どおり一条の溝と十数穴のピットを検出したのにとどまりました。遺跡の中心部でのこれまでの調査成果とは違い、非常に密度の低い状況で、これまでの分布の想定を再確認した結果となりました。検出した遺構からは土師器、須恵器、灰釉、緑釉陶器、そして軒平瓦が出土していて、奈良時代のものであることがわかっています。

まとめ.

益須寺遺跡は、古墳～平安時代の集落、寺院跡として周知される遺跡で、これまでの調査で奈良・平安時代の集落と『日本書紀』にも記載のある寺院「益須寺」に使われた瓦が普遍的に見つかっていて、益須寺建立地は具体的に想定されていますが、古墳時代の集落は遺跡の東半で見つかっているものの、その集落域になると未だ混沌とした状況です。今回の調査成果によって、当地周辺で見つかった古墳時代の竪穴住居の集落はここまでは及ばず、小規模に営まれていたものであると考えることができます。

(岩崎)

5, 二ノ畦遺跡

調査概要.

二ノ畦遺跡の第19次調査は11月初めより開始し、二カ月を要してほぼ完了しました。見つかったのは当初予想されたとおり弥生時代中期と古墳時代中～後期の遺構でした。後者については今回土壙と溝を検出するにとどまり住居跡等は見つかりませんでした。弥生時代中期の遺構には、大溝が2条、土壙7基（うち2基については住居跡の可能

時代から江戸時代までの遺構を検出することができました。遺構は少なかったのですが遺構面までの堆積層には遺物がかなり含まれていることや遺構の方向などを考えると、遺跡はさらに北西、南東へ広がっていくことがわかりました。

(畑本)

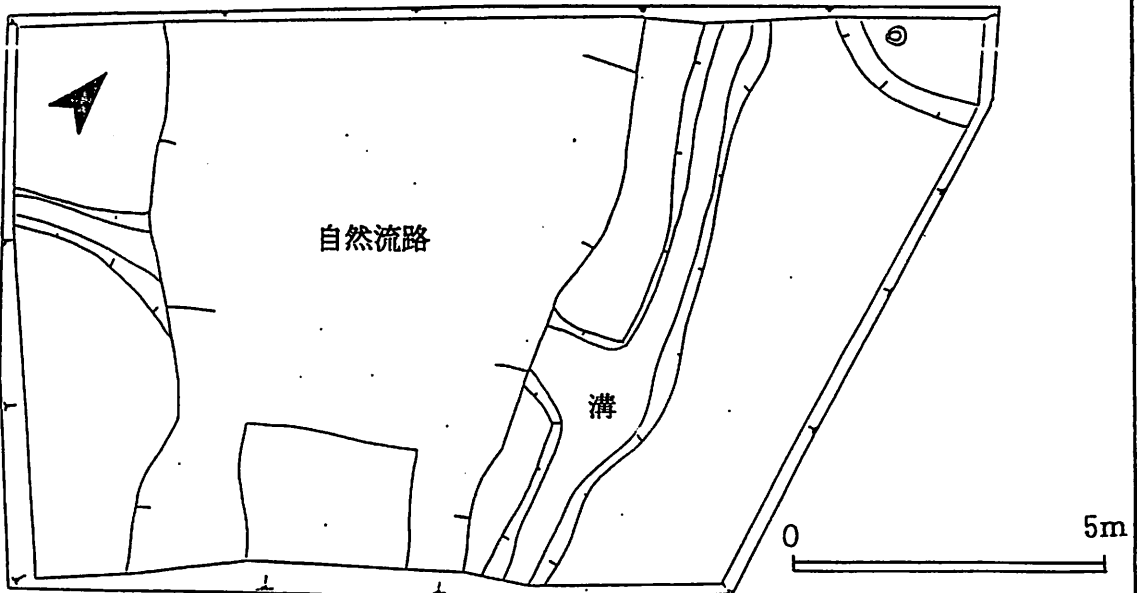
3, 八ノ坪遺跡

調査地. 守山市播磨田町字深見
調査期間. 11月13日～11月17日
調査面積. 312㎡
調査実施の理由. 個人住宅建築に伴う事前調査

調査概要.

今回の調査では弥生時代中期の溝2条と土壇1基、自然流路1条を検出しました。土壇に関しては調査区画によって切られたため全容が把握できませんでしたが円形のたてあな^{たてあな}住居の可能性も残しています。調査地の南40mの地点では以前の調査で中期の方形周溝墓^{けいしゅうこうぼ}がみつかっており、今回検出した遺構との関連性が問われます。

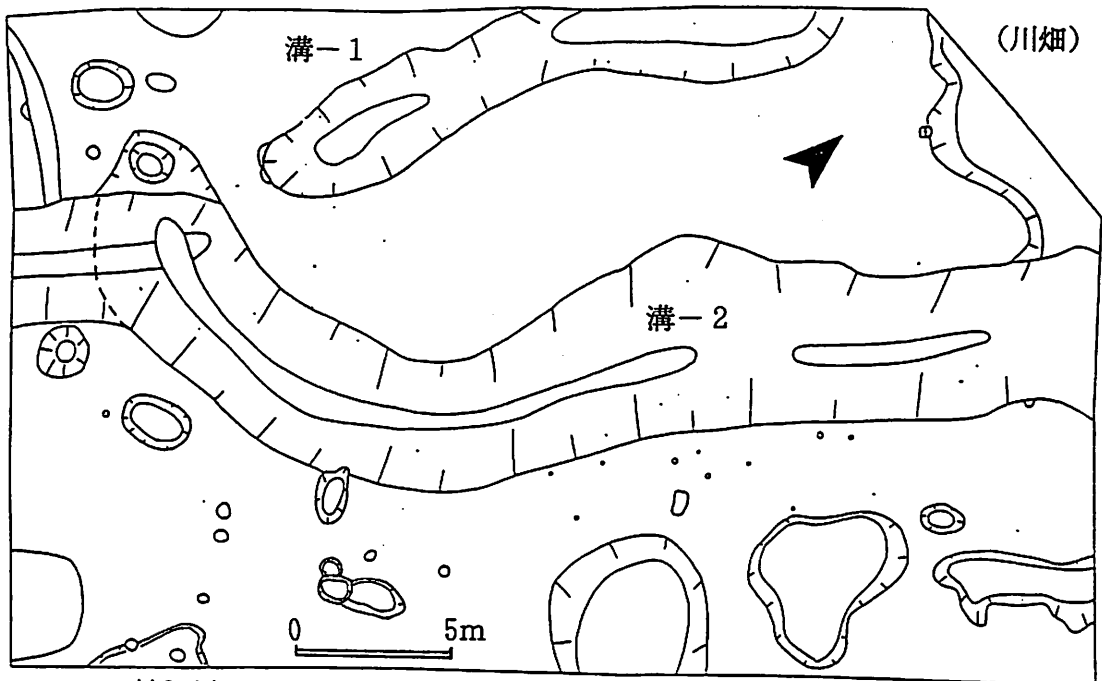
(宮下)



性があります)、柱穴、等がみつかりました。みつかった2条の溝を仮に溝-1、溝-2とすると(図参照)、溝-1は幅3m・深さ1.6mで南北に走り、溝-2は幅5m、深さ2mで溝-1に接合されたかたちをとっています。溝-1、溝-2の出土した遺物の比較をすると、溝-1からは弥生中期末の土器がコンテナに4箱程と磨製石斧が1本、砥石が1ヶ。溝-2からはほぼ同時期の土器がコンテナに1箱程出土し、遺物の量では溝-1が溝-2をはるかに凌いでいます。断面形状は溝-1、溝-2はともにV字状をしており、堆積状況では土塁や堤防状の施設の痕跡は確認できませんでした。

まとめ。

二ノ睦遺跡の弥生集落は以前の調査から周囲を壕でめぐらせたムラの形態をとっていることが指摘されており、今回みつかった2条の大溝がそれとどのような関係をもっているか注目されます。詳細は遺物の検証も含めて煮詰めていきたいと思ひます。



6, 吉身西遺跡

調査地.	守山市守山町字コモ田
調査期間.	11月5日~16日
調査面積.	100㎡

調査実施の理由。 個人住宅建設に伴う事前調査

調査概要。

個人住宅調査で面積も少なく、遺跡の範囲の端にあたるため、遺構が検出できるかどうか心配でしたが表土を除去すると厚さ約20cmの包含層があらわれ、多量の土器が出土しました。この包含層を除くと古墳時代後期の竪穴式住居3棟、溝2条、ピットが検出されました。これらの遺構は出土した須恵器から5世紀後半～6世紀末までの期間と考えられます。

まとめ。

出土した遺物の中に「波状文」を施した須恵器の坏蓋1点、身2点があるほか、器台、壺の中にも古いものがみられた。なお遺跡の性格として吉身中遺跡に近いものがあると思います。

(山崎)

《 調査中 》

7, 酒寺遺跡

調査概要。

これまでに弥生時代中期の方形周溝墓、後期の大溝などが発見され弥生土器も数多く出土しています。10月からは遺跡の東側部分の調査を進めています。その結果弥生時代中期の方形周溝墓、古墳時代後期の掘立柱建物、柱穴跡などが発見されています。

(伴野)

~~特別展のお知らせ~~

市民ホールで開催しました市制20周年記念特別展『守山の歴史を掘る』は、去る12月2日をもって終了しました。開催期間中の入場者数は1200名を越える盛況なものでした。列品された品々は、守山市内の縄文～江戸時代の遺跡からみつかったもので皆さんの眼を興味深く引きつけてくれたものと思います。今後も現地説明会・特別展等を多く企画し、埋蔵文化財調査成果の公表に努めていきます。

【後記】 「光陰矢のごとし」とはよくいったもので、月日の経るのは何と早いことでしょう。クリスマスに除夜の鐘、正月とアツという間にすぎてしまう。発掘調査も暖かく四季の移り変わりや自分の年齢さえも忘れてしまいそうです。さあ、白い髭が生るまえに早く原稿、原稿、 , , , ?

(k記)